

7月分市況報告書

報告者 中島良晴

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 7月5日

今回も市況は絶不調の様相を呈している。2週間前の市を見ているのでショックは少ないが、感触としては前回よりも悪化しているように感じる。

今回落札された杉で、10,000 円/㎡に達した物件はわずかに杉 4.0m の中目材が1件だけ。明細表に空欄が続く所は3.0m 材が並んでいる。最初の1号物件は応札があったのでほぼ押し売りの状態だったが、ほかの3.0m 材の惨状を見て応じてくれた。

まったくの空欄という事は、誰一人として応札しなかった、と言う事で取り付く島もない。

不落札の物件は、応札があったという事だが “あまりにも安く落札に至らない” という事では無く “落札できた物件と比較して同程度の材なのに落札物件よりも安い” という事で落札できなかったと読める。仮に今回の落札物件の価格も、不落札物件と同じ所まで下がれば、それが相場となり、落札せざるを得なくなる。

特に3.0m 柱材の不振は目を覆うばかりである。

県森連の渋川工場の受け入れ価格も、この相場では妥当と言わざるを得ない。

渋川工場の本音は「しばらくの間、搬入を控えてくれないかな〜。」 だと思う。

但し 工場設立の趣旨から外れるので、表立っては言えない。と言った所ではないか？

特に3.0mの 16~18 cmの需要が無い。共販所の担当に「この仕分けは必要か？時代にそぐわなくなって来ていないか？」と聞くと「これを20 cm上の桧に入れてしまうと落札できる価格に達しなくなる。」との事だ。適正寸法の筈が捨石の様になっている。使い道に対して適正な仕分けには違わない筈だが、使い方が変わってきている。

ある業者は、自社工場へ運ぶ部途中で、一旦チップを多く生産している工場へ降ろしそこで粗く角材にした物を、自社工場へ搬入しているそうだ。太い材を挽いた時に出る厚い背板は、その丸太の中で、一番良い部位で、我々は”サシミ”とか呼んでいたところだ。木目はしっかり詰まり、節も出ない部位なのだが、この部分はチップにされてしまっているそうだ。もちろんこの部位を大切に使っている業者も居り、販売単価は丸太の10倍ほどになる。しかし、何分にも背板なので歩留まりが悪く、そんな面倒な事をする業者は減っている。それよりも途中で粗挽きした後は運賃が安くなる方を取る。

それ位だから、落札と不落札の価格差は非常に接近しており、何時もう一段下がってもおかしくない状態である。出荷した材がこんなタイミングに出くわせば、ひとたまりもない。3.0m材に比べて4.0m中目材の方が、幾分動きが良いし、応札枚数も複数ある。応札枚数が複数あるという事は、相場も下支えがあると言う事で、まだ木材市場の呈をなしている。やはり、しばらくは4.0m造材に重心を置いてみたらどうだろう。

調査日 素材生産協同組合 7月6日

今回素生協は”お中元市”として開催された。

思えばこう言った特別市は、県森連の”秋需先取市”などの様に季節の中で需要の変わり目などの時期にタイミングを合わせて、市を盛り上げようとする市であった。

秋需とは夏の暑い盛りを超えて、虫害の治まった、新材が出始める時期に起こる需要である。それが最近では年間のメリハリが無くなって、間の抜けた特別市の名前だけが残っている。それでも名前の付いた市が残っているのは、自然のサイクルは変わり無いので本来この時期には良質の材が集まるべきだ。このサイクルに戻るべきだ。

という思いからかもしれない。。その”お中元市”が蓋を開けてみて驚いた。

昨日の県森連の市よりさらに酷い状態になっている。

荷降ろし土場の方は少し片付く見通しが見え始めて、ようやく今年の夏に入荷した材が姿を現した。言い換えれば今回市に掛かっているのは、ほとんど古材・虫害材なので、こんな結果も無理からぬ事かと思うが、国有材も売れていない。

素生協の場合は、不落札は発表しないので、情報不足だが。応札のあった物は多少安くても、ここで一掃すべきだったんじゃないか？

何しろ、明細書の1ページ当たり数件しか売れていない。中には1件だけのページもある

私も永く木材の市を見てきたが、こんなのははじめて見た。入札結果発表は5分程で終わる

しかしそんな中で気になる物件がある。トーチューが杉の2.0m材を8,000円/m²で買っているのか

カラマツも完全回復とは言えないものの、少し前のまともな値段で買っている。

住友林業もヒノキの中目を安くはあるが、量はまだ沢山いらないが、本気で買おうとしている。

「西日本の豪雨災害で、合板メーカー在庫が減った事が起因している」と見る人もいる。

これからの季節、台風や土砂崩れ・水害によって、需要が出ることは確かだろう。

しかし、もちろんそれは我々が目指すSDG's林業とは程遠いもので良い兆しではない。

但し、災害復興には物資の提供と並行して、雇用の提供も欠かせないという。

復興のために合板が売れて、それを使って被災した人たちの復興雇用を生み出せば

最良の使い道だ。要は社会が必要としている物は売れる。

社会との接点が少ない林業には難しいかもしれないが、これを探さなきゃ絶対に売れない！